

審査の結果の要旨

氏名 南 昌秀

本研究は、心房細動の危険因子を明らかにすることを目的として、職域における健康診断受診者の結果記録を用い、縦断的に検討（後ろ向きコホート研究および症例対照研究）を行っており、以下の結果を得ている。

1. 飲酒習慣

後ろ向きコホート研究において、心房細動発症と一週間あたりの飲酒量（純アルコール換算 161g 以上）との関連に有意差が認められた。症例対照研究では、初発心房細動発症 1 年前で、飲酒習慣あり、一日あたりの飲酒量が発症に関連していた。発症 2 年前では、一週間あたりの飲酒日数、一日あたりの飲酒量、一週間あたりの飲酒量が関連していた。発症 3 年前でも、飲酒習慣あり、一週間あたりの飲酒日数、一日あたりの飲酒量が関連していた。この結果は、飲酒が心房細動発症の危険因子であることを示唆している。

2. 血圧

後ろ向きコホート研究において、心房細動発症と血圧（収縮期血圧 140mmHg 以上）との関連に有意差が認められた。症例対照研究においては、心房細動発症と収縮期血圧との関連が発症 3 年前において認められた。この結果は、従来の報告と一致し、高血圧が心房細動発症の危険因子であることを示唆している。

3. BMI (Body Mass Index)

後ろ向きコホート研究では、心房細動発症と BMI ($25\text{kg}/\text{m}^2$ 以上) との関連に有意差が認められた。症例対照研究では、発症 1 年前で関連が認められた。この結果は、BMI が心房細動発症の危険因子であることを示唆している。

以上、職域健康診断の男性受診者の結果記録を用い、初発心房細動症例の危険因子について検討した。その結果、飲酒習慣、血圧、BMI が、健康な日本人男性労働者の初発心房細動の重要な危険因子であると思われた。行動変容の観点から見ると、飲酒習慣という生活習慣の改善により、心房細動の少なくとも一部は予防できる可能性があると考えられる。